

甌島里方言の二格形容詞

久保 蘭 愛（愛知県立大学）

はじめに

- 鹿児島県薩摩川内市甕島里町里において、次のように形容詞の項にガ格ないしはニ格（主題化されることがある）を伴う場合がまとまってみられる。
- (1) カミナイ { ガ / ニ / ニャー } オトロイカ。
 - kaminari {=ga / =ni / =ni=wa } otoroi-ka.
 - 雷 { =NOM / =DAT=TOP } 怖い-NPST
 - 「（私は）雷が怖い」
- 本発表では、こうしたニ格を取り得る（格の交替の起こる）形容詞について、
- ①この現象が生じる条件（形容詞述語のタイプ・刺激のタイプ）
- ②第一項の人称によるニ格の偏り
- について現時点で得られたデータをもとに報告する（データ不足も多いことをお許しいただきたい）。

発表の順序

- はじめに
- 甕島里町について
- 先行研究
- 話者情報
- 里方言の二格形容詞
 - 二項述語階層
 - 他動形容詞の階層
 - 刺激の階層
 - 人称の偏りとそれに関わる仮説
- おわりに

甌島列島および里



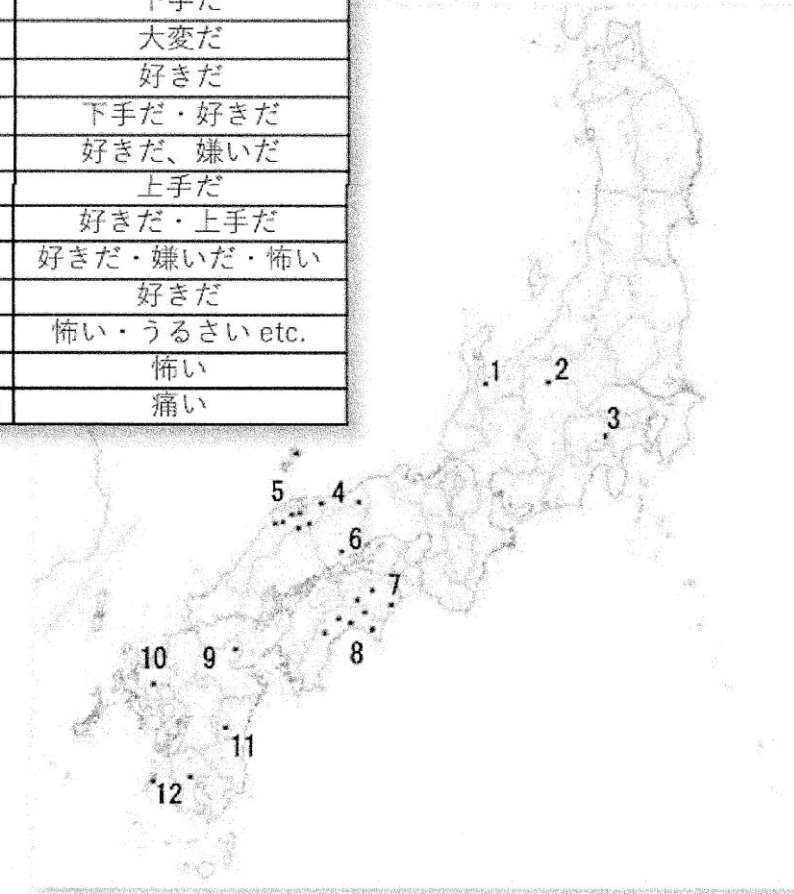
図1 鹿児島県図

- 薩摩半島の西方約30キロメートルに位置する3つの島（上甌島・中甌島・下甌島）から成る列島。
- 総人口4603人（平成29年10月1日）。里町は1166人。
- 推定される話者人口は550人ほど（平塚(2017)）
- 木部(2011)ではUNESCOの危機言語に登録されていないものの消滅の危機の度合いが高いと言及される。
- 本発表では最も本土に近いところに位置する上甌島の里を対象とする。

二格を取り得る形容詞の先行研究

- 「先生ニ（ニャー）怖い」という言い方は、共通語のほとんどの形容詞では不可。「～にじれったい」「～に困る」などは可能か？
- 形容詞が二格を取り得る方言は西日本を中心に点在しているが、これまでに報告されているのは「好きだ」「嫌いだ」「下手だ」「上手だ」にほぼ限られると指摘されている（下地他(2018)）。

番号	県名	語彙
1	富山県	下手だ
2	長野県	大変だ
3	山梨県	好きだ
4	鳥取県	下手だ・好きだ
5	島根県	好きだ、嫌いだ
6	岡山県	上手だ
7	徳島県	好きだ・上手だ
8	高知県	好きだ・嫌いだ・怖い
9	大分県	好きだ
10	佐賀県	怖い・うるさい etc.
11	宮崎県	怖い
12	鹿児島県	痛い



下地他(2018)による

先行研究

- 詳細な記述を行っている先行研究は下地他(2018)と松岡(2019)。それ以前の研究は、形容詞がこうした格を取り得ることを一部報告するにとどまる。
- 下地他(2018)は宮崎県椎葉村尾前方言を対象に、松岡(2019)は尾前方言と佐賀県武雄市北方(きたがた)方言を対象に、それぞれ二格を取り得る形容詞について論じる(松岡(2019)は対格表示も含めて検討)。以下、両論文が指摘する重要な点をまとめる。
- (2)下地他(2019)・松岡(2019)による階層
- 左の階層ほど与格が生じやすく、右の階層で可能であれば左も可能。
- 二項述語の階層：**他動形容詞(形容詞与格構文) > 二重主語形容詞**
- 他動形容詞の階層：**心情述語 > 感覚述語**
- 刺激のタイプの階層：**ネガティブな刺激 > ポジティブな刺激**

先行研究

- (3)下地他(2018)および松岡(2019)の指摘のつづき
- 与格表示だけが許容される場合はなく、与格（および対格）が許容される場合は必ず主格表示も許容される。主格表示が無標の形。
- 三人称に偏って与格の許容度が上がる

- 結論を先取りしていえば、
- ①里方言の二格形容詞も先行研究の指摘する階層に合致する・違反しないこと
- ②「相互識別（松岡(2019)）」に加えて形容詞の人称制限によって人称の偏りが生じている可能性があること（仮説）
- がわかった。

調査情報

- 話者情報
 - A氏：1933年生まれ。女性。[0-14]薩摩郡里村→[14-18]いちき串木野市→[18-現在]薩摩郡里村（→薩摩川内市里町）
 - B氏：1929年生まれ。男性。[0-15]薩摩郡里村→[15-18]村外→[18-現在]薩摩郡里村（→薩摩川内市里町）
- 調査方法：面接調査
- 調査日時：2017年11月・2019年2月
- 用例の挙げ方
 - 一段目：具体的な音形
 - 二段目：形態素分析（基底の形）
 - 三段目：グロス
 - 四段目：解釈

前提情報

- 主格：=ga / =no
 - 両者は有生性階層と他動性階層によって使い分けられる（坂井(2019)）。今回は=ga / =noをまとめて扱う。
- 与格：=ni。長音および撥音の後[ni] / それ以外の環境では[i]で実現する。
- 対格：=ba（熊本方言に近い）
- 対象とする形容詞は共通語のイ形容詞とナ形容詞を含む。
- 形容詞の言い切り：基本的にカ語尾（熊本方言に近い） or コピュラを伴う形容詞

- (補) オラー オズグ { テー / テーニャー } ジョーズヤイドー。
 - ore=wa ozug-u { =to=ni / =to=ni=ni=wa } zjoozu=ja-i=doo
 - 私=TOP 泳ぐ-NPST { =準体=DAT / =準体=DAT=DAT=TOP } 上手=COP-
 - NPST=SFP
 - 「私は泳ぐのが上手だ」
- 与格は主題化されることもあるが、今回は主題化したものとそうでないものを特に区別していない。

二項述語階層

- 形容詞は一項述語だけでなく、二項述語文がある。
 - 第一項：無標な語順で先行かつ主語とみなせるもの
 - 第二項：それ以外
- 二項述語文は少なくとも2つのタイプに分かれることが指摘されている（以下、下地他(2018)の例文）。
- 二重主語形容詞文（第二項が独立した項になっていないもの）
 - 俺は頭が痛い（全体と部分）
 - 俺は親が病気だ（所有者と被所有者）
 - 俺は背が高い。（主体と関連物）
- **他動形容詞文（第二項が知覚を引き起こす刺激になっているもの）**
 - 俺は水が欲しい（経験者と刺激）

- もう一つ，下地他(2018)が「（暫定）二重主語文」と呼ぶタイプ。「上手だ」「下手だ」
- 2つの項を必要とする形容詞だが第二項は刺激項ではない。「第二項で指示されるのは、第一項の属性（行為）であり，広義の所有関係（行為者と行為）が成立する二重主語文」。
- 友達は絵が上手だ（友達（が描く）絵が上手だ） = 友達の絵が上手だ

- **他動形容詞文 > （暫定）二重主語文 > 二重主語文**
- という階層が提案されている。

• (4) 一項形容詞

• リョーリ { ガ / *ニヤー }

アッタラカー。

• rjoori { =ga / *=ni=wa }

aQtara-ka=a

• 料理 { =NOM / *=DAT=TOP }

もったいない-NPST=SFP

• 「料理がもったいない」

• (5) 二重主語文

• アタマ { ノ / *ニヤー }

イタカー。

• atama { =no / *=ni=wa }

ita-ka=a.

• 頭 { =NOM / *=DAT=TOP }

痛い-NPST=SFP

• 「(私は) 頭が痛い」

• (6) (暫定) 二重主語文

• オラー オズグ { ター / テー }

ジョーズヤイドー。

• ore=wa ozug-u { =to=wa / =to=ni } zjoozu=ja-i=doo

• 私=TOP 泳ぐ-NPST { =準体= TOP / =準体=DAT } 上手=COP-NPST=SFP

• 「私は泳ぐのが上手だ」

• → 一項述語・二重主語文では=niをとることは出来ない。(暫定) 二重主語は可。

• (7)他動形容詞文

- a.オラー コロンダ { トガ / テー } ハズカイカッタ。
- ore=wa koroN-da { =to=ga / =to=ni } hazukai-kaQ-ta
 - 私=TOP 転ぶ-PST { =準体=NOM / =準体=DAT }
 - 「私は転んだのが恥ずかしかった」

- b.オラー ツルシガーキ { ガ / バ / ニャー } スカン。
- ore=wa turusigaaki { =ga / =ba / =ni=ni=wa } sukaN
 - 私=TOP 干し柿 { =NOM / =ACC / =DAT=DAT=TOP }
 - 「私は干し柿が嫌いだ」

- c.ワシャーアノ クルマ { ガ / *ニャー } ホイカモス。
- wasi=wa ano kuruma { =ga / *=ni=wa } hoi-ka-mos-u.
 - 私=TOP あの 車 { =NOM / *=DAT=TOP }
 - 「私はあの車が欲しいです。」

• → **(暫定) 二重主語文や刺激項をとる他動形容詞では=niをとることができる(全てではない)。提案されている階層に違反しない。**

補：他動形容詞でも不可のもの。

- ツナミ { =ワ / *=ニャー } オトロイカ。
- tunami { =wa / *=ni=wa } otoroi-ka.
 - 津波 { =TOP / *=DAT=TOP } 怖い-NPST
 - 「津波は怖い」
- 刺激項をとる他動形容詞でも，一般的に怖いものは許容されない。
- 刺激と解釈できなくなる（叙述と解釈されるようになる = 一項述語文になる）からか。

他動形容詞の階層

- (8) 感覚形容詞
- a. オラー チューシャ { ガ / *ニヤー } イタカ。
- ore=wa tjuusja { =ga / *=ni=wa } ita-ka.
 - 私=TOP 注射 { =NOM / *=DAT=TOP } 痛い-NPST
 - 「私は注射が痛い」
- b. ワシャー オヒサマ { ガ / *ニヤー } ヒガラーイカ。
- wasi=wa ohisama { =ga / *=ni=wa } higaraai-ka.
 - 私=TOP お日様 { =NOM / *=DAT=TOP } まぶしい-NPST
 - 「私はお日様がまぶしい」
- c. アン オトニヤー セワライカ。
- aN oto=ni=wa sewarai-ka.
 - あの 音=DAT=TOP うるさい-NPST
 - 「あの音がうるさい」
- 第二項が刺激になるタイプの感覚形容詞でも、許容されないものが多い。

- (9)心情形容詞
- a.オラー カミナイ { ガ / ニャー } オトロイカ
- ore=wa kaminai { =ga / =ni=wa } otoroi-ka.
 - 私=TOP 雷 { =NOM / =DAT=TOP } 怖い-NPST
 - 「私は雷が怖い」
- b.アン フテー マケタト { ガ / ニャー } クヤイカッター
 - aN huto=ni make-ta=to { =ga / =ni=wa } kujai-kaQ-ta=wa.
 - あの 人=DAT 負ける-PST=準体 { =NOM / =DAT=TOP } 悔しい-動詞化-PST=SFP
 - 「あの人に負けたのが悔しかった」
- c.オラー ツルシガーキ { ガ / ニャー } スカン。
- ore=wa turusigaaki { =ga / =ni=ni=wa } sukaN.
 - 私=TOP 干し柿 { =NOM / =DAT=DAT=TOP } 嫌いだ。
 - 「私は干し柿が嫌いだ」
- ※先行研究の指摘通り, 「スキヤイ (好きだ) 」 「スカン (嫌いだ) 」も形容詞に含む。
- →心情形容詞は相対的に=ni / =ni=waを許容するものが多い (すべてではない)

- (10)属性？形容詞
- a.コン ニモツニヤー オブカナー。
- koN nimotu=ni=wa obu-ka=naa.
 - この 荷物 { =NOM / =DAT=TOP } 重い-NPST=SFP
 - 「（軽いと思って持ってみたら）この荷物は重いなあ」
- b.オラー マゴ { ガ / ニヤー } ミジョーカ。
- ore=wa mago { =ga / =ni=wa } mizjoo-ka.
 - 俺=TOP 孫 { =NOM / =DAT=TOP } かわいい-NPST
 - 「私は孫がかわいい」
- →a.b.は属性？？なのかよくわからない。感覚や心情のような使い方？
- いずれにせよ，他動形容詞文になる属性形容詞は少ないため，おそらく許容されにくいものと推測される。

他動形容詞の階層

- 人称を**1人称**に設定。
- =ni / =ni=waが可能な形容詞。
 - うらやましい, 嬉しい, 怖い, 臭い, 悔しい, **上手だ**, 嫌いだ, 好きだ, うるさい, 寂しい, 苦手だ, 憎い, 恥ずかしい, **下手だ**, **かわいい**,
- 意外性・対比の文脈を作るとやや=ni / =ni=waの許容度があがるもの（個人差ある可能性）
 - 温かい, 冷たい, 重い, 軽い,
- =ni / =ni=waが許容されない形容詞。
 - もったいない, まぶしい, やさしい, 痛い, おいしい, かゆい, からい, 苦しい, 渋い, しんどい, 高い, 眠い, 不思議だ,
- 相対的に心情形容詞に偏る。感覚形容詞も可能なものがある。
- **心情形容詞 > 感覚形容詞 (> 属性形容詞) の順に=ni/=ni=waが可能。**
- 他方言での指摘される階層に違反しない。

刺激の階層

- **ネガティブな刺激 > ポジティブな刺激。**
- (11) オラー ツルシガーキー ニヤー スカン (私は干し柿は嫌いだ)
- ore=wa turusigaaki=ni=ni=wa sukaN.
 - 俺=TOP 干し柿=DAT=DAT=TOP 嫌いだ.NPST
 - 「私は干し柿が嫌いだ」
- (12) ?? ツルシガーキー ニヤー スキヤイ ((私は) 干し柿が好きだ)
- ?? turusigaaki=ni=ni=wa suki=ja-i.
 - 干し柿=DAT=DAT=TOP 好き=COP-NPST
 - 「(私は) 干し柿が好きだ」
- → 「好き」の場合は、やや不自然。階層に違反しない。
- ネガティブな刺激の方が「刺激」として関知されやすいから (下地他 (2018))
- これも指摘されている階層に違反しない。

なぜ格の交替が起こる？

- ①下地他(2018), 松岡(2019)によれば, 主格・対格・与格は以下のような意味的なベクトルを持っているという。
- 対格：それによって表示される項**に**向かう求心ベクトルを積極的に表示→ACC
- 与格：それによって表示される項**から**向かう（弱い）遠心ベクトルを積極的に表示→DAT
- 主格：意味的ベクトルに中立（無標）
- 「他動形容詞文には, 端的に言って能動文的な側面と受動文的な側面が共存している（下地他(2019:p.11)」からであるという。
- オラー カミナリ { ガ / ニ } オジェー
- 里方言ではどうか？考えてみる必要。
- ②もう一つの要因はあとに述べる「相互識別（松岡(2019)）」

二格の許容度に関する人称の偏り

- 一人称から三人称へ，人称をシフトさせると二格の許容度が上がるという傾向が報告されている（下地他(2018)，松岡(2019)）。甕島里方言でも同様。
- (13) ワシャー オヒサマ { ガ / *ニャー } ヒガライカ。
- wasi=wa ohisama { =ga / *=ni=wa } higarai-k-a.
 - 1=TOP お日様 { =NOM / *=DAT=TOP } まぶしい-NPST
 - 「私はお日様がまぶしい」
- (14) オヒサミャーニャー ヒガラッシャー シトラー。
- ohisama=ni=ni=wa higarasi-sa=ni si-tor-u=wa.
 - お日様=DAT=DAT=TOP まぶし-さ=DAT する-PF-NPST=SFP
 - 「（あの子は）お日様をまぶしそうにしている」

- 三人称では，二格（および対格も）の許容度が上がるだけでなく，主格が許容されなくなる例もある。
- (15)オヒサミャーニャー ヒガラッシャー シトラー。
- ohisama=ni=ni=wa higarasi-sa=ni si-tor-u=wa.
 - お日様=DAT=DAT=TOP まぶし-さ=DAT する-PF-NPST=SFP
 - 「（あの子は）お日様をまぶしそうにしている」
- (16)オヒサマバ ヒガラッシャー シトラー。
- ohisama=ba higarasi-sa=ni si-tor-u=wa.
 - お日様=ACC まぶし-さ=DAT する-PF-NPST=SFP
 - 「（あの子は）お日様をまぶしそうにしている」
- (17)*オヒサマノ…
- *ohisama=no
- =ni=waあるいは対格（=ba）は許容可能だが，もっとも無標だったはずの=gaや=noが許容されなくなる例が出てくる。

人称の偏り（再掲）

- 人称を**1人称**に設定。
- =ni / =ni=waが可能な形容詞。
 - うらやましい, 嬉しい, 怖い, 臭い, 悔しい, **上手だ**, 嫌いだ, 好きだ, うるさい, 寂しい, 苦手だ, 憎い, 恥ずかしい, **下手だ**, **かわいい**,
- 意外性の文脈を作るとやや=ni / =ni=waの許容度があがるもの（個人差あり）
 - 温かい, 冷たい, 重い, 軽い
- =ni / =ni=waが許容されない形容詞。
 - もったいない, まぶしい, やさしい, 痛い, おいしい, かゆい, からい, 苦しい, 渋い, しんどい, 高い, 眠い, 不思議だ,
- 心情形容詞 > 感覚形容詞 > 属性形容詞の順に=ni/=ni=waが可能。

人称の偏り

- 人称を**三人称**に設定。
- =ni / =ni=waが可能な形容詞（太字=1人称で許容度の低いもの。）
 - **痛い**, 嬉しい, 怖い, **かゆい**, 臭い, 悔しい, 上手だ, 嫌いだ, 好きだ, うるさい, 寂しい, 憎い, 恥ずかしい, **まぶしい**, **眠い**, **不思議だ**, 下手だ, （上手だは未調査）
- →感覚形容詞を中心に, =ni / =ni=waをとれる形容詞が増える。
- 意外性の文脈を作るとやや許容度があがるもの。
 - **しんどい**,
 - （温かい, 冷たい, 重い, 軽いは三人称未調査）
- 言えなくなる形容詞
 - **うらやましい**の1語のみ。やや例外的…？

補足：例外「うらやましい」

- (18) ワシャー オマエサミャーニャー ウラヤマイカモーサー。
 - wasi=wa omae=sama=ni=ni=wa urajamai-kar-moos-u=wa
 - 私 = TOP あなた = 様 = DAT = DAT = TOP うらやましい - 動詞化 - 丁寧 = SFP
 - 「私はあなた様がうらやましいです」
- (19)* タローワ ハナコニャー ウラヤマシガットラー。
 - taroo=wa hanako=ni=wa urajamasi-gaQ-tor-u=wa
 - 太郎 = TOP 花子 = DAT = TOP うらやましい - 動詞化 - PF - NPST = SFP
 - 「太郎は花子をうらやましがっているよ」
- 非文の()はやや共通語的であるため (p.c.平塚雄亮氏) か？
- 項の内容をそろえた上で, hanako=ni=ni=waの形で再調査が必要。

- (20) コン { #ネカー / ネコニャー / ネコバ } クサシャー シトイ。
- koN { #neko=wa / neko=ni=wa / neko =ba } kusa-sa=ni si-tor-u.
 - この { #猫=TOP / 猫=DAT=TOP / 猫=ACC } 臭い-さ=DAT する-PF-NPST
 - 「(太郎は) この猫を臭がっている」
- (21) タローワ ケイト { *ガ / ニャー } カイシャー シトイナー。
- taroo=wa keito { *=ga / =ni=wa } kai-sa=ni si-tor-u.
 - 太郎=TOP 毛糸 { *=NOM / =ni=wa } 痒い-さ=DAT する-PF-NPST
 - 「太郎は毛糸をかゆがっている」
- =gaでマークされた名詞句や主題化された「ネカー」が主体のように解釈されてしまう。
- なぜ「**三人称で**」=ni (あるいは=baも) が許容されやすくなり, 反対に主格が許容しづらくなるのか?

- 二格の許容度が上がるのは、「相互識別（松岡(2019)）」のため。
- 松岡(2019)は、心情形容詞に偏って対格が現れる要因について、以下のような指摘をしている。
 - (109)a. 経験者が一人称の場合 (110) 経験者が一人称の場合
 - oiga nikka. 「私（経験者）が憎い」 oiga nikka. 「私（経験者）が憎い」
 - b. 刺激が一人称の場合 (111) 刺激が一人称の場合
 - oiga nikka. 「私（刺激）が憎い」 oi{ga / ba} nikka. 「私（刺激）が憎い」
 - （松岡(2019)の例文を一部私に改めた）
- 経験者項あるいは刺激項のいずれかが発話されない場合、どちらが刺激項なのか判断できなくなる。
- (112) 尾前方言・北方方言で見られる言語現象
- 対格表示の出現場所：刺激項の対格表示は、心情形容詞が述語の場合のみに限られる。これは、刺激項が有生物をとる形容詞は心情形容詞に偏っており、経験者項と刺激項の相互識別が必要となるからである。（松岡(2019:p.37)）
- 尾前方言と北方方言の対格について指摘されていることが、里方言の三人称形容詞の二格の許容度上昇の要因と考えられる。

- 仮説：
- 現代共通語および本方言（おそらくほとんどの日本語諸方言も）の形容詞の人称制限あり。
- 1人称：言い切り
- 2人称：疑問文にする必要（あるいは-gar-などの接辞も？）
- 3人称：-gar-などの接辞が必要（ノダ文も可）
- 刺激項 = 経験者以外の他者（他物）
- 一人称の場合 = 形容詞述語が言い切りになるため，第一項（経験者）が発話上省略されたとしても感情感覚の持ち主が一人称であることが述語の形から容易に判断され，同時に何が刺激項になるかも解釈に揺れが生じることもない。
- (22) アン フトン ハナーシャー ネブカナー。
- aN huto=N hanaasi=wa nebu-ka=naa.
 • あの 人=GEN 話=TOP 眠い-NPST=SFP
 • 「（私は）あの人の話は眠い」

- しかし三人称の場合は（特に2項とも有生物である場合），2つの項のうち，どちらが刺激項でどちらが経験者項かがわからない（わかりにくくなる）。
- (23) コン{ #ネカー / ネコニャー / ネコバ } クサシャー シトイ。
- koN { #neko=wa / neko=ni=wa / neko =ba } kusa-sa=ni si-tor-u.
 - この{#猫=TOP / 猫=DAT=TOP / 猫=ACC } 臭い-さ=DAT する-PF-NPST
 - 「（太郎は）この猫を臭がっている」
- → 「猫が臭がっている」のか？ 「誰か別の人が臭がっている」のか？
- (24) タローワ ハナコ { *ガ / ニ / バ } セワラッシャー シトイ。
- taroo=wa hanako { *=ga / =ni / =ba } sewarasi-sa=ni si-tot-u.
 - 太郎 = TOP 花子 { *=NOM / =DAT / =ACC } うるさい-さ=DAT する-PF-NPST
 - 「太郎は花子をうるさがっている」
- → 「太郎がうるさがっている」のか？ 「花子がうるさがっている」のか？
- **三人称の場合に二格が許容されやすいのは述語部分で判断できない刺激項と経験者項を区別するためなのではないか？**
- 他方言で「好きだ」「上手だ」などの述語が二格を取り得るという記述が目につくのは，これらの述語が-gar-などの人称を明示する接辞を持たないためと推察される。
- 二人称は未調査のため，今後要調査。

- 予測：
- 三人称+形容詞-ガル相当，あるいは心情動詞から二格を取るようになった可能性も考えてみる必要がある？
 - 古典語で「怖づ」が二格をとる（下地(2018)）。
 - 現代共通語でも「～ニ困る」など言える。心情動詞との連続性（里方言は心情動詞も二格に交替する）。
- 他の方言も検討して，一人称+形容詞では二格をとらないが，三人称+形容詞-ガルは許容される方言があるかどうか？

- 結論：
- ①里方言の二格形容詞も先行研究の指摘する階層に合致する・違反しないこと
- ②「相互識別（松岡(2019)）」に加えて形容詞の人称制限によって人称の偏りが生じている可能性があること（仮説）

- 今後の課題：
- データの穴をうめる。
- =baと=niの分布および機能差再考（今回=baはまとめきれず）。
- 二人称の形容詞文の調査。

参考文献

- 木部暢子(2011)「鹿児島県甑島方言」木部暢子他『「危機的な状況にある言語・方言の実態に関する調査研究事業」報告書』大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所
- 坂井美日(2019)「甑島方言の格について」窪菌晴夫・木部暢子・高木千恵編『鹿児島県甑島方言からみる文法の諸相』くろしお出版
- 下地理則・松岡葵・井上郁菜・宮岡大(2018)「与格項形容詞構文について～宮崎県椎葉村尾前方言を中心に～」第43回九州方言研究会発表資料
- 松岡葵(2019)「九州方言における形容詞経験者構文の非典型格標示－宮崎県椎葉村尾前方言と佐賀県武雄市北方方言を中心に－」九州大学文学部卒業論文（「下地理則の研究室」<https://www.mshimoji.com/blank-4>）
- 平塚雄亮(2017)「甑島里方言の形容詞連用形」『西日本国語国文学』4